

アルザス史 8 第二次大戦下のドイツ化

志村 良知

1940年5月、お互いに宣戦布告し合いながら半年以上続いた「居座り戦争」という睨み合い状態を破って、ドイツがフランスに攻め込んできた。ドイツ国境には巨額を投じて建設し、時の軍需大臣の名前を付けた要塞群『マジノ・ライン』があった。しかし、重武装要塞地帯は北アルザスとロレーヌだけで、アルザスが東側でドイツと接するライン川流域では大河の存在と、ローマ時代からの居住耕作圏だった故に要塞は小規模・軽武装であった。堆積平野に大規模な地下要塞を建設するのは地盤の問題があったのかもしれない。

ドイツの侵攻に先立って、さらに10万人以上のアルザスとロレーヌの住民が南フランスに疎開させられ、土壇場でライン川畔の住民約5万人がボージュ山中に移された。

戦史の語るように、ドイツ機甲部隊は戦車通行不能と言われたベルギーのアルデンヌの森（実際は森と言うより深い溪谷もある山岳地帯。これはシュバルツバルト＝黒い森も同じ）を突破して、マジノ・ラインよりはるか西、中部フランスの普仏戦争と第一次大戦の両戦争の古戦場セダン付近に北のベルギー国境から攻めて来た。ロレーヌや北アルザスに設けられたマジノ・ラインの中核である重武装要塞地帯は迂回されてしまったのである。

フランス本土に攻め込んだドイツ軍は西に進んで大西洋（6月4日）とパリ（6月14日）を手中にした。さらに6月14日から一部を東に向け、本国からの部隊とともに、ロレーヌとアルザスをボージュ山脈（西）側とライン川（東）側から挟み撃ちにした。

6月17日にコルマルが、19日に住民がいないストラスブールが占領された。アルザス主要部はゲーリング元帥自慢の電撃戦の華、空軍＝ルフトバッフェを使うこともなく5日間であっけなく陥落してしまった。住民の3分の1を強制疎開させ、代わりにフランス正規軍が防備を固めていたにもかかわらず、たった5日でドイツに明け渡してしまったこの体たらく。アルザス人に「フランスはアルザスを見捨てた」という思いを強くさせた。

迂回されたマジノ・ラインはどうなったのか。重武装要塞の一部は、ドイツのいわば要塞裏口からの東向きの攻撃に抵抗して7月1日に降伏するまで戦った。さらに一部は1944年冬の連合軍侵攻の際にドイツ軍が籠ったため連合軍の攻撃で破壊されたが、地下要塞として、完全な状態で残っている場所も多く、国の管理の下、安全処置も施されて保存されている。

る。大砲は撤去されているが砲台、司令部、居住設備、巨大な発電機、病院、弾薬庫などをトロッコのレールが結び、当時のエレベーターも可動で、国家公務員のガイドによるガイドツアーがある。ツアーの名物はワイガヤ興味津々の見物客の頭上で予告なしに鳴らされる毒ガス警報の大音響ブザーである。これは鳥肌が立ち文字通り足がすくむ。

パリ陥落後のコンピエーユ休戦協定（6月22日）ではアルザス・ロレーヌの所属は案件にもされず、ドイツは当然の事として占領アルザスとロレーヌに居座った。ビシー政権はそれをどうすることもできなかった。アルザス・ロレーヌは準州扱いでドイツ本国の一部とし、ナチス政権が任命した大官区長が、強大な権限を執行した。この大官区長ロベルト・ヴァーグナーという人物は熱狂的ナチス党员で、ドイツ本国よりも苛烈なナチス化を押し進めた。

フランス南部に疎開させられていたアルザス人の元の土地への帰還が始まる。もちろん帰還は無条件ではなく、嚴重な身元調査の末、ナチスに忠誠を誓う宣誓書にサインを要求された。約10万人が帰還を拒否され、代わりに東欧に住んでいたドイツ人の入植が行われた。ユダヤ系以外の人でも、ドイツ占領下のアルザスへの帰還を自分から拒否した人たちもいた。

アルザスは純ドイツへとクリーニングされていく。言葉もアルザス語はドイツ語の方言ではないとされ、標準ドイツ語が強制された。Alsace は Elsass に Colmar は Kolmar となり、町、通り、広場などの名前もドイツの軍人、政治家の名前に変えられた。住民のファーストネームもフランス的なものはドイツ的なものに変えさせられた。数千のモニュメント、銅像が破壊撤去された。ドイツ国防軍への志願兵が募られたが、不調のため徴兵に切り替えられた。若者はさすがにフランス本土には送られず、対ソ連戦の東部戦線に送られた。しかし、ナチス武装親衛隊SSに志願入隊した者はフランス本土にドイツ兵として駐屯した。

熱烈なアルザス愛国者にしてフランス・アルザス主義者の画家アンシはスイスに亡命した。

勿論、この状況を当時の住人が歓迎したわけではない。しかし、大官区長の権限は絶対だった。禁止のフランス語を使うなど反ナチ斯的言動がばれるとボージュ北部の山中にあったブロック・シルメック収容所送りとなり、事と次第によっては処刑された。徴兵忌避は重罪だった。この収容所は現在もモニュメントとして残されている。それでも、ラインの華アルザスの文化は根強く守られ、言葉も家庭では標準ドイツ語ではなくアルザス語が話され、隠れキリシタンならぬ「隠れアルザシアン」として21世紀に継続されていく。

9.米仏連合軍によるアルザス解放戦闘。に続く